

		日本	米国
出荷	総計	240万台	1625万台
	1人当り(台)	0.02台	0.071台
	1台当り(人)	50人	14人
売上	総計	1.2兆円	390億ドル(4.875兆円)
	1人当り	10,000円	170ドル(21,200円)

注) 平均価格： 日本50万円/台、米国30万円/台

円ドル比率： \$ 1 = ¥ 1 2 5

図1 日・米のパソコン市場(ハードウェア)
規模・同普及率(1991年)

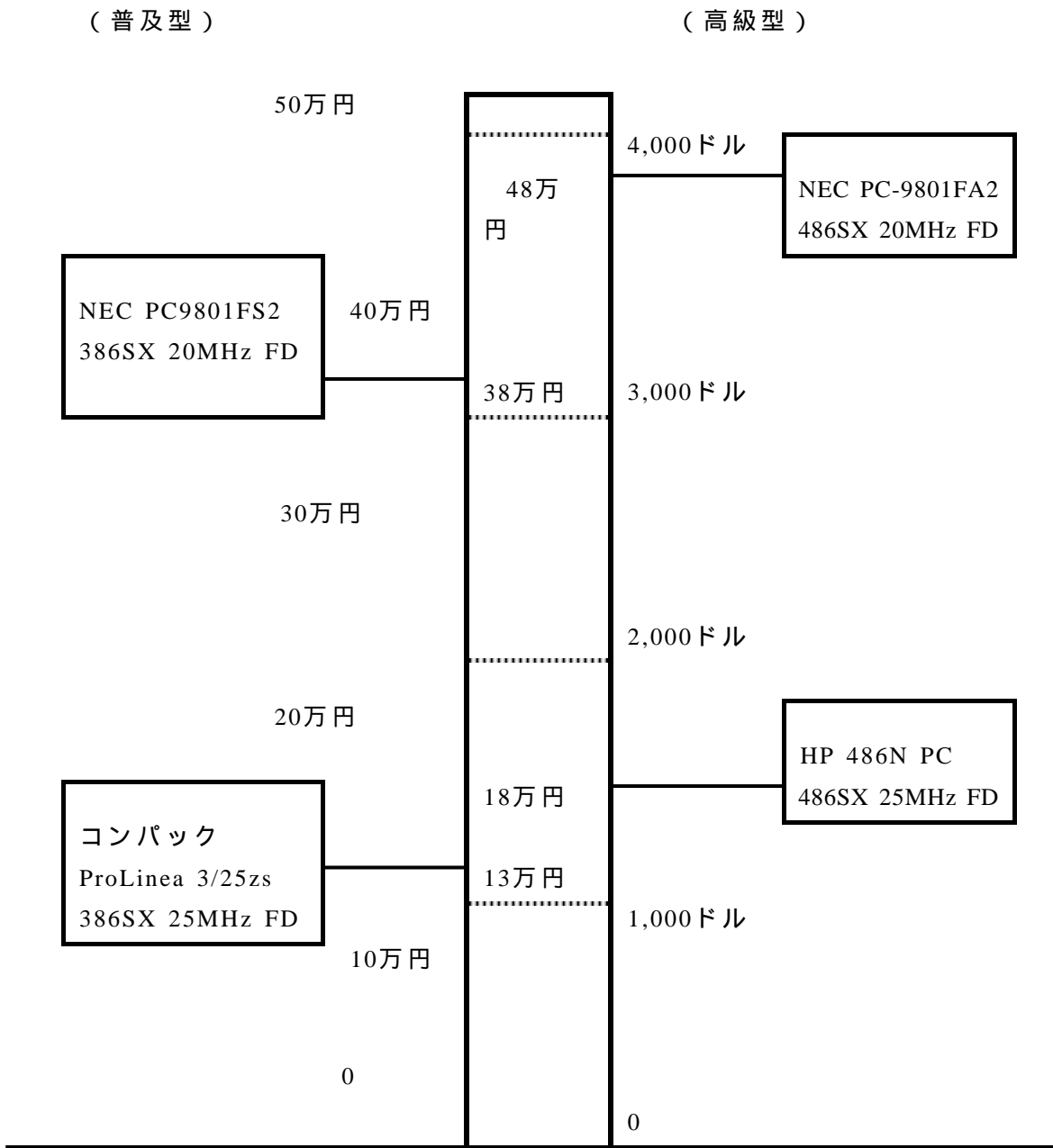


図 2 A 日・米のパソコン価格の比較 (1992年 6 月)

『日経パソコン』(1992年 6 月 22 日号)より抜粋

年 次	事 項
1972-1978年	日米各社がパソコン（マイクロコンピュータ）を発売
1981年	米IBM、IBM-PCを発表（8086）、パソコン市場に参入
1982年	国内25社が16ビットパソコンを商品化 日本電気、PC-9800を発表（8086） 米IBM、PC/XTを発表
1983年	日本IBM、5550を発表（8086） 米IBMがパソコン市場シェア1位をとる
1984年	米IBM、PC-ATを発表（80286） 日本電子工業振興協会TRONプロジェクト発足 米IBM、互換機メーカー相手にBIOS著作権侵害訴訟を提起
1985年	日本電気、PC-9800VXを発表（80286） インテル、日本向けに80286を本格大量出荷
1986年	米国でPC-AT互換機の供給が急速に増大
1987年	エプソンがPC-9800互換機を発表、同BIOS著作権紛争と和解
1989年	米IBM、PS/2（80286，MCAバス）を発表（MCA使用料は売上高の5%）
1990年	日本電気、PC-9800DAを発表（386）
1991年	国内パソコン出荷額、年1兆円を超える
1992年	日本IBMがDOS/Vを発表
1993年	米国でパソコン価格急落、日本への流入増加 日本電気、価格を従来の1/2以下に引き下げた新しいPC-9800モデル
1995年	を発表 DOS/V市場シェア50%に近づく
1996年	マイクロソフトがDOS/V用Windows-95を発売。日本電気もPC-9800シリーズ機にWindows-95を搭載して発売。両シリーズが同一プラットフォーム上で使えるようになった。

表1 日・米のパーソナル・コンピュータ

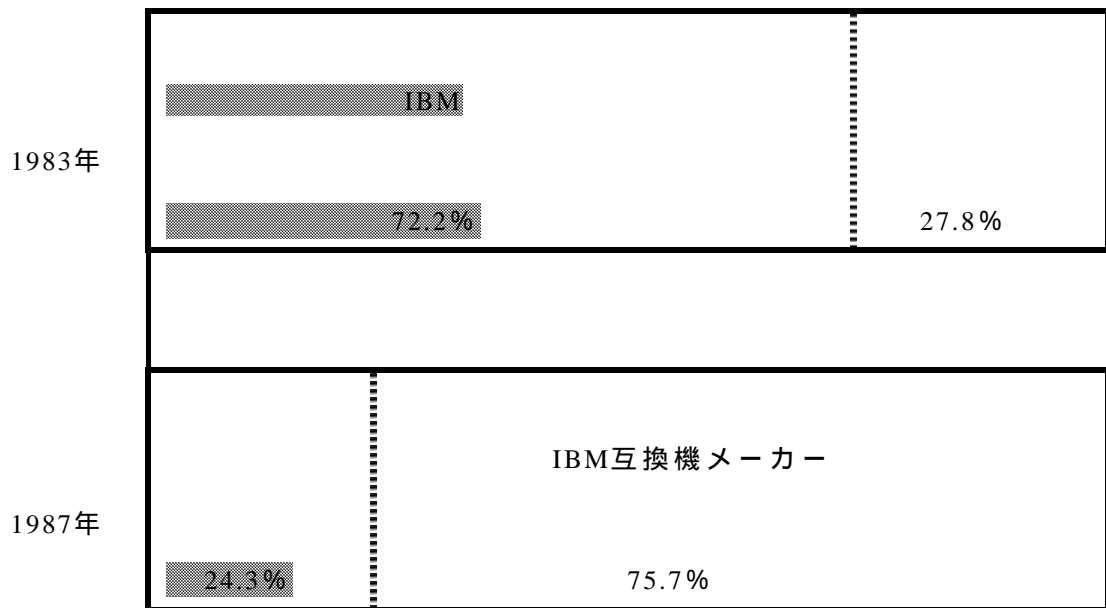


図3 IBM PC互換機市場における
IBMと互換機メーカーの台数シェア

『日経パソコン』（1989年5月1日号）より抜粋

(単位：
万ドル)

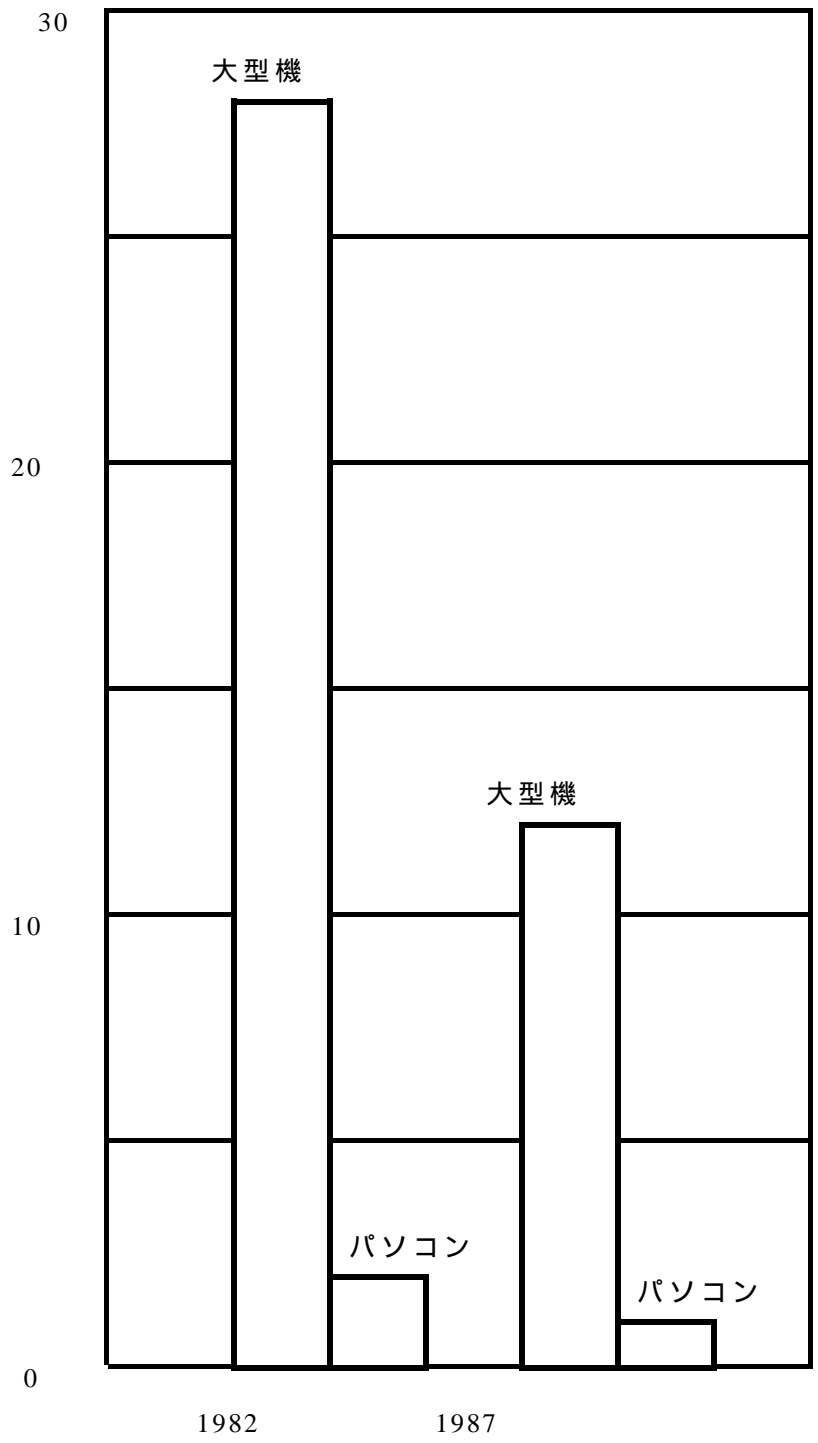


図4 大型機（メインフレーム）とパソコンにおける
1 MIPS（百万命令毎秒）当たりの資本価格

『日経パソコン』（1988年3月7日号）より抜粋

年次	事 項
1970年	マイクロプロセッサ開発に着手
1971年	4004 (4ビット命令、4ビット入出力)
1972年	8008 (8 - 4)
1974年	8080 (8 - 8)
1977年	32ビット・プロセッサ検討はじまる
1978年	8086 (16 - 16)
1979年	8088 (16 - 8)
1982年	80286 (16 - 16)
1985年	386 (32 - 32)
1988年	386SX (32 - 16)
1989年	i486DX (32 - 32)
1990年	i386SL
1991年	i486SX,i487SX
1992年	i486DX2 (50MHz) , i386SL (20MHz) , i486DX2 (66MHz)
1994年	Pentium
1995年	Pentium PRO
1997年	Pentium II

表 2 インテル・マイクロプロセッサの供給